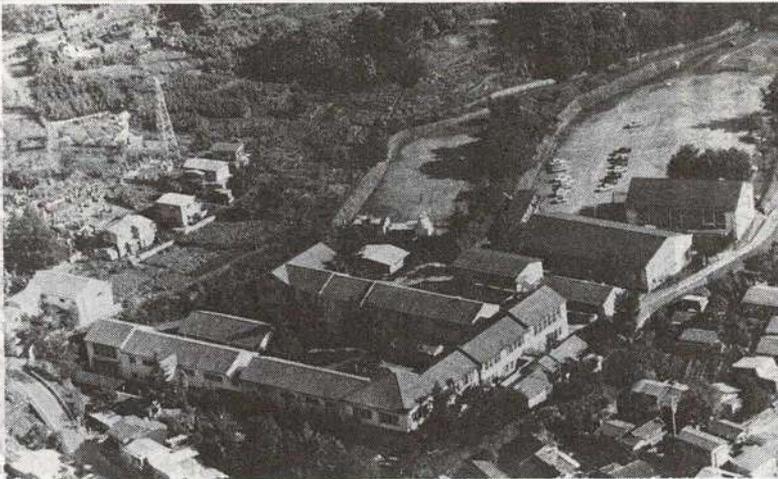


清陵同窓会報

第5号



校舎全景—八十周年記念式典挙行時に撮影

現校庭に鉄筋5階建て？ ～ 校舎全面改築へ始動 ～

生徒増に伴う狭あいかつ老朽化した校舎、野球や満足の陸上競技もできない狭い校庭。ここ数年、本格的な校舎全面改築の必要性が叫ばれておりました。わが母校・諏訪清陵高校も、いよいよその懸案を具体的に検討する時期がやってきました。

諏訪地方では、岡谷工業高校がほぼ全面改築を完了。岡谷南高校が昨年から全面改築に着手。下諏訪町には五十五年春に新設高校が開校するなどの動きがあり、当校も昭和六十年には生徒数が一千人を突破するなど、状況から、全面改築に向け早急な対応を迫られているものです。質実剛健と自主独立の校風、創立八十四年の伝統を誇る母校の更なる発展は同窓生二万四千人の等しく願うところ。まずは手狭になった校舎の現状と、現段階での学校側の希望を含めた構想を紹介して、会員各位の全面改築問題についてのご理解を深めていただきます。昭和三十年十月、体育館の竣工をもって全面改築が完了した現校舎は、木造二階建て三棟約四千三百平方メートル。その後、女生徒を含む生徒数の急増から家庭科教室新築（四十九年）、被服教室新築（五十三年）、フ列ハブ新校舎・四教室新築（五十四年）と相次ぐ増築を重ね、このほか部室一号館、耐火倉庫、格技室、更衣室、シャワート室も新たに設置されたり、かつての学友会館も撤去されるなど、校舎環境は著しく変ぼうしました。このため、新築建物と旧校舎はあちこちから渡り廊下で結ばれ、まるで「迷路」のようになってい

るのが現状です。こうした一時しのぎの増改築もはや限界にきており、快適な学習環境を維持するために、校舎の全面改築が急がれるわけです。学校側の大まかな構想による、現地改築、つまり現校舎をつぶして校庭にし、現校庭に校舎を建設する計画です。校舎は文部省の指導方針に基づき、鉄筋コンクリート五階建て二棟程度が考えられています。規模は一学年八学級とし普通教室二十四教室に特別教室をセツトすることになり、子どもに定される総工費は約三十億円です。もちろん、これらの計画はまだ学校側の希望段階で、改築計画を具体的な軌道に乗せるために、今後は学校PTA、同窓会から成る建設委員会を結成して、原案を練っていくことになりま



狭隘な母校は迷路のよう

す。しかし、基本的には、「清陵」の名前のおり清水ヶ丘での現地改築で、戦前の諏訪中学同様、現在の校地の東側に校舎、西側に校庭の配置になることは動かないとみられています。学校では五十五年度に調査費をつけるよう県に働きかけ、遅くも五十七年度には十年に一度の大事業完成のため、会員各位の大きなご支援をお願いする次第です。

会報五号発刊に寄せて

同窓会長 大森 栄

本会会報第五号が発刊される事になった。本年度から役員改選が行われて新しい組織で会の運営に当たっているが、会報発行についても委員長はじめ委員の陣容を新たにしていよいよ会員の要望にこたえようと取り組んで来られた。

本号には、母校校舎改築の問題が主要な記事として取り上げられていると聞く。清陵高校の現校舎は如何にも粗末な建物である。そして規模も小さい。これについては、改築当時の止むを得ない、そして不幸な事情を改めて思出さざるを得ない。戦前県立中等学校の校舎改築が進められて、諏訪高等女学校が移転改築されて目を見張るばかりの素晴らしい校舎になったのは、昭和八年十一月である。続

いて松本中学校が蟻ヶ崎の丘上に堂々たる校舎が出来て移転した。次に諏訪中学校と言う順番であったが、地元の準備態勢が整わず、長野中学校に順番が変わって、これまた移転改築を完了した。そこで昭和十五年諏訪中学校の改築が問題となったが、はかばかしく進まぬうちに戦争となって改築どころではなくなった。終戦後改築問題が再燃したのが昭和二十三年である。既に県教委の方針として打ち出されながら改築費に対する地元負担額が大きく重くのしかかって進捗しない。第一次案(鉄筋コンクリート建築)は表にも出ず、第二次案(本館木造二階建築)も生徒定員を落とし、規模を縮小する事で実施計画案が出来たが、朝鮮動乱の大

浪をかぶって実施困難となり、更に予算の修正を得て建築にかかったのが、昭和二十六年であった。それにしては現校舎は、約三十年を経過している。よくぞ耐え抜いて来た。然かも生徒定員は増加し、狭隘に喘いでいる。

先日は、母校を訪れた帰りに体育館の脇を通過して運動場沿いの道を清水町へ通り抜けてみた。国道へ出るところで、うしろを振り返って校舎に迫る裏山の姿を見た。これこそ我々が生徒の時、毎朝学校の玄関を仰ぎ、更に眼をあげて見た山の姿に外ならない。そして、踏みつける道の固さは、朴歯の下駄を通して足裏に響いた六十年前の感触である。清水ヶ丘はここに立派に生かして、此度こそ立派にやり遂げてほしいものである。

校舎全面改築を控えて

学校長 矢島 五郎

校舎改築は、母校の教育進展の上に避けては通れぬ問題となつて来た。地元負担の重圧はなくなったが、三十年前の苦しかった経験をも十分に生かして、此度こそ立派にやり遂げてほしいものである。先日は、母校を訪れた帰りに体育館の脇を通過して運動場沿いの道を清水町へ通り抜けてみた。国道へ出るところで、うしろを振り返って校舎に迫る裏山の姿を見た。これこそ我々が生徒の時、毎朝学校の玄関を仰ぎ、更に眼をあげて見た山の姿に外ならない。そして、踏みつける道の固さは、朴歯の下駄を通して足裏に響いた六十年前の感触である。清水ヶ丘はここに立派に生かして、此度こそ立派にやり遂げてほしいものである。

必要となる。県教委では、このような事態を予想して、昭和五十五年四月から新しく下諏訪に高校を開校する運びとなつているが、昭和五十八年にはこの新設高校が満配の八学級の生徒を入学させたとしても、かなりの数の生徒がはみ出すことになる。したがってこのと

校庭の拡張はこれまた不可能に近い。さらに、現在の校舎は朝鮮動乱の影響下に建設されたため、その老朽化が激しく、床の破損、雨漏りなどの補修に追われている現状である。このため、県教委でも清陵の全面改築については既に考慮中であり、近い将来そのための調査費を予算化していただければ、近いうちに改築の原案を作成する必要がある。本年から校内に全面改築のための特別委員会を設けて、その準備に取り組むことにしている。

校庭の拡張はこれまた不可能に近い。さらに、現在の校舎は朝鮮動乱の影響下に建設されたため、その老朽化が激しく、床の破損、雨漏りなどの補修に追われている現状である。このため、県教委でも清陵の全面改築については既に考慮中であり、近い将来そのための調査費を予算化していただければ、近いうちに改築の原案を作成する必要がある。本年から校内に全面改築のための特別委員会を設けて、その準備に取り組むことにしている。

と、本校の全面改築にあたって、もつとも頭の痛い問題は校地が狭隘であるということである。八、九、十年の間に、本校の全面改築にあたって、もつとも頭の痛い問題は校地が狭隘であるということである。八、九、十年の間に、本校の全面改築にあたって、もつとも頭の痛い問題は校地が狭隘であるということである。

と、本校の全面改築にあたって、もつとも頭の痛い問題は校地が狭隘であるということである。八、九、十年の間に、本校の全面改築にあたって、もつとも頭の痛い問題は校地が狭隘であるということである。



1967年中日本レガッタ優勝戦（第1レーン）

建設委員会が発足

艇庫、年内完成へ

先斗六

幾度かの栄光を母校にも 楽しい一ページを飾って
たらし、また我々の青春の れたボートの住まいが、五

十四年度いよいよ移転改築
の運びになりそうです。艇
庫の建設はかねてよりの念
願。八十周年記念事業の一
つとして、すでに諏訪市六
斗先地籍に建設予定地が確
保され、先ごろには艇庫建
設委員会が同窓会内に組織
されました。宮坂正直県議
を顧問に、藤森利男委員長
ら十四人の委員の皆さんが、

かつて諏訪湖だったところ
は、ヨットハーバーに、石
彫公園にと変わっています。
大正十二年三月、そのこ
ろ水辺に建てられた艇庫も
幾度かにわたる埋め立てで
岸から次第に遠のき、今回
の埋め立てにより、いよいよ
先端艇の出入りが大変不自
由をきたすことになってし
まいました。しかも半世紀
を超す星霜に建物の老朽化
も著しくなっています。艇
庫移転改築の主な理由はお
およそこのような点にあり
ます。

建設年度はこれまで国体
後ということで留保されて
きました。その国体も昨年
終わり、「ことし中にはな
んとか建設の目鼻を付けた
い」が、目下、委員会、学
校の「合言葉」となってい
る次第です。ただここで頭
の痛いことは予算のメドが
立っていないということ。
現在の艇庫の敷地のほとんど
は他から借り受けている
もので、県有地はわずかに
九十九平方メートル（三十坪）あ
るのみ。この県有地を売却
し造成費と建設費を捻出し
たいとの意向のようですが、
見積りによると敷地造成費
が二千万円、総額では四千
万円がかかるとのこと。で
すからいかに少なく、それ

り盛んに埋め立てが行われ
なっているところだす。

新艇庫は、昨年のやまび
こ国体ヨット会場となった
諏訪市のヨットハーバーの
六斗川寄り、島崎川をやや
逆上ったあたり。今は水田

入生歓迎乗艇、クラスごと
の乗艇、秋の校内端艇大会
と湖上に若い熱気をほとば
しらせたことはおそらく同
窓生の若き日の思い出の一
つでは。懸案となっていた
艇庫の三日も早い完成に、
会員皆さんのご理解とご協
力をお願い致します。

営業品目 時計・宝石・メガネ・レコード石



株式会社

ヤマザキ

社長 専務

山崎 伊原 岩柳 八

崎藤 谷波 沢 幡

英秀 秀 昭

一 篤 博 充 成 生 憲

(51回生)
(67回生)
(63回生)
(65回生)
(66回生)
(74回生)
(77回生)

諏訪市諏訪
1-3-11
TEL
2-5200(代)

でいかに内容のあるも
のにするかが課題となつて
いるわけで、同委員会と学
校は、いまま県などと折衝
を重ねているのです。

清陵のボートは、旧諏訪
中学校の創立と共に誕生、
端艇部が輝やかしい戦績を
残しているばかりか、「オ
ール執る手も勇しく、漕ぐ
や天竜 富士 守屋」と校
歌にも歌われているように
全校生徒が心身を鍛えるた
めのボートとして、春の新



昭和53年度 同窓会決算書 昭和54年度 同窓会予算書

収入の部

科目	53年度決算額	54年度予算額	備考
入会金	633,500	636,000	
繰入金	200,000	250,000	
繰越金	97,752	65,626	
雑収入	3,660	2,374	預金利息
合計	934,912	954,000	

支出の部

科目	53年度決算額	54年度予算額	備考
事務費	10,850	10,000	
会議費	72,820	75,000	幹事会等
総会費	51,780	100,000	
旅費	45,500	50,000	役員出張旅費等
人件費	140,000	140,000	
需要費	95,375	100,000	u-Bix
役務費	12,871	15,000	
慶弔費	43,540	60,000	
寄付金	250,000	250,000	財団清陵会へ
記念品費	141,500	135,000	卒業生記念品代タイピンを贈る
雑費	5,050	5,000	
予備費	0	14,000	
繰越金	65,626	0	
合計	869,286	954,000	

53年度総会報告

昭和五十三年度の総会は 周到な準備のもとに総会が

十月二十九日(日)、母校 もたれましたが、当日は相

講堂において行われました。 憎のドシヤ降り雨だった

総会執行当番幹事学年は め、参加者の出足が鈍かつ

第42回生で(副43回生)、 たことは残念でありました。

並びに予算について

一、昭和五十二年

度会務

一、八十周年記念事業の

一、八十周年記念事業の

現況について

一、役員改選について

総会にて決定すべき役員は次のとおりで、全員再選されました。

- △会長 大森栄 △副会長 山田六一、小口禎三 △監事 寺島和泉、小松定弘

53年度会務報告

五十三年

五・二一 監査会

右 同 常任監事会(五

十二年度事業と決算報告、五十三年度事業と

予算案、記念事業報告)

六・二二 幹事会(右同)

七・一九 当番幹事会(総

会についての協議と準備)

一〇・一三 常任幹事会

(総会提出議案、特に

事務局解散について)

一〇・二九 五十三年度同

窓会総会(五十二年

度会務と決算、五十三年

度事業と予算、記念事

業と決算、事務局解散

↓常任幹事会、役員改

選(懇親会)

五十四年

一・一九 艇庫建設準備委

員会(艇庫建設委員会

発足)

二・三三 同窓会会報準備委

員会(同窓会報委員会

発足)

二・七三 艇庫建設委員会

(第一回会合)

まごころかよう...おつきあい

北十二銀行

岡谷支店

英表表印

岡谷東支店

(下諏訪支店)

(下諏訪支店)

諏訪支店

諏訪本町支店

茅野支店

富士見支店

80周年記念事業現況

◎八十年史

八十年史は十月末に執筆を完了し、来年三月に発刊いたします。大変に遅れ申し訳けなく思っておりますが、担当者一同忙しい校務のかたわら一生懸命に取り組んで下さっております。役員は次のとおりです。

市より購入し確保しておりますが、建物建設は五十二年のやまびこ国体終了後にということ、しばらく保留しております。本年は国体も終了しましたので、艇庫建設委員会を発足させ、学校当局と共に県をはじめ関係方面への折衝を進めております。皆さんの努力によって、五十四年度中には建設にまでこぎつけられるものと思っております。役員は次のとおりです。

△顧問 小尾虎雄、今井信雄、▽主任 小口祐一、▽委員 矢島寿雄、平島佐一、高木昭彦、牛山皓司、牛山正雄、古原正之

◎艇庫建設

既に建設予定地(一六六斗川先、約二百十坪)は、諏訪山崎壮一、河西勇▽委員 松崎元博、遠藤智義、細川

住所、勤務先など変更の方は事務局までご連絡を

事務局では常に会員の移動を記録しております。移動のあった方は、回別(または入学年度)、氏名、自宅、勤務先、各電話番号などを、ハガキにてお知らせ下さい。

昭八、宮坂祐次、三井光之、飯田節夫、中島伸一、名執泰夫、牛山正雄(学校)、山崎忠(同)

◎同窓会報

八十周年を機会に創刊された同窓会報は、ここで委員のメンバーを強化一新し、会員相互のコミュニケーションの場として、愛され親しまれる会報づくりに専念

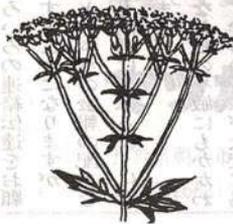
54年度同窓会役員

名譽会長 矢島五郎(校長)
会長 大森 栄
副会長 山田六一
監事 寺島和泉
常任幹事 小松定弘

石井陸蔵(総務担当)
井上彦次(庶務会計)
藤森利男(艇庫委員長)
田中吉泰(会報委員長)
尾沢賢一(東京担当)
藤森横次(諏訪支部長)
平山正健(下諏訪支部長)
高木 満(同副支部長)
林 憲二(岡谷支部長)

高木常雄(岡谷副支部長)
宮坂久臣(同副支部長)
清水康弘(辰野支部長)
竹内丈夫(茅野支部長)
伊藤治夫(同副支部長)
丸茂恵司(同副支部長)
五味(富士見支部長)
坂本 積(同副支部長)
松沢 達(原支部長)
清水勝弘(同副支部長)
武井武人(学校教頭)
矢島子郎(学校職員)
山崎 忠(学校事務長)

して下さることに成りました。役員は次のとおりです。
▽委員長 田中吉泰▽副委員長 石井未夫▽委員 笠原修、立石良忠、横内正武、井孝博
寄付者名 (五十三年度十月以降)
25回・金原禎一 四口
27回・吉田正二郎 六口
29回・青木茂 二口
50回・和田修一 二口
56回・宮沢弘 二口
57回・山崎元一 二口
58回・清水保雄 二口
76回・横川徹 〇・四口
▽訂正 栗林正賢(二口誤) ↓四口(正)
同窓会報延滞、未着につきおわび申し上げます。昨年の会報第四号は郵送料節約のため、地元については手配りにより各会員のお手元へ届くようにしましたが、これは大変困難なことで、多数の廷着、未着を出してしまいました。該当された方には深くおわびいたします。今回よりは再び全部郵送することになりました。



書籍・雑誌・パンフレット
カタログ・その他印刷一般

中央印刷株式会社

本社工場 長野県岡谷市川岸108
東京工場 東京都新宿区新小川町1-6
伊那工場 長野県上伊那郡箕輪町9514

支部だより

諏訪支部

諏訪支部では三月二十四日午後六時から浜の湯で約八十八人が出席、五十四年度総会を開いた。井上彦次本部長が挨拶、藤森横次支部長があいさつ、大森栄会長、矢島五郎学校長、艇庫建設委員会顧問の宮坂正直県議、山崎壯一浜の湯社長（本部幹事）らが祝辞を述べ、諏訪湖一周マラソンの年中行事には、毎年参加者全員にりんごを贈り激励して来た諏訪市渋崎・茅野好男さんご一家に矢島学校長より感謝状が贈られた。



盛会だった諏訪支部総会

引き続き岩波映画編集の記録映画「諏訪湖一周マラソン」を観賞した。三協光学、南信さくらカラ、日東光学などの献身的なご奉仕で製作されたもので、なか

あるシーンだけに、熱い視線をスクリーンに注いでいた。このマラソンにはO Bも参加、知った顔がクロースアップされるたびにどよめきが上がった。このワイヤ二十余年経過しました。正

茅野支部

茅野支部は原村と合同で式発足は昭和三十三年七月の事。当時の支部長は大先輩の阿部高光さんで私は副支部長でした。阿部さんは茅野市在住でしかも原村出身。熱心に支部の仕事もされ、本会においても大きな存在でありました。高齡で本春物故されましたが、支部独自の会則も出来ました。

富士見支部

この支部は広大な地域を擁しており、しかも会員が偏在するので、役員もそれに対応するように配置し、即ち本会の幹事を大体旧村単位に依頼する他、支部独自に評議員を指名し評議員はおよそ部落ごとに一、二名置いて会員との連絡に当たっていたが、仕組みにしてあります。

地元の繁栄をはかる……信用金庫

諏訪信用金庫

理事長 岡 利 平 (28回)
専務理事 宮 坂 久 臣 (49回)

本 店 長野県岡谷市幸町7番41号
TEL 岡谷 (02662) 3-4567

岡谷支部

支部の総会は三月十日午後六時より松風亭で開いた。本校より大森会長と矢島校長が参会され、八十年記念事業や学校の近況につき報告があった。約百人が参集したが、年々若い会員が増してくるのが有望だ。『同級会の二次会は支部総会で』

をモットーに仲々意気盛んなものがあつた。土曜日を選定したためドクター同窓生が目立った。同級の仲間が誘い合つて出席すればい

下諏訪支部

が誘い合つて出席すればいずれ会場の変更もせざるを得ない時代が来るだろう。往年を知るものにとつては感無量のものがあつた。母校八十周年を契機に又青春時代を同一校で過したという感慨が校歌合唱の中にそれぞれよみがえつて一時のうさや社会はなれの空間を作る―それが同窓会というものだろう。友情を通じ、また事業を通じ、老いも若きも意志の交流があつてこそ意義を見出し出して欲しい。

支部活動として報告申し上げます程のものはありませんが、昨年の会員動静として物故者四名おられ、支部旗をもつて謹んで申意を表しました。本年は現在まで一名もなく、会員一同つがなくそれぞれ活躍精進されております。昨年十月十三日支部総会を行い、約四十名の参加があり、本日より大森会長、矢島校長、小口副会長、東京支部尾沢幹事の御参加を得て、意気大いに昂り、懇親を深め、実のある会となりました。席上地区役員二十九名を指名し、本部よりの情報の伝達、及び会報の配布、更に会員の動勢把握に努める事

と致しました。先ず第四号会報の配布を行い、初めての事として役員の方には相당한御苦勞を願いました。郵送か各支部での配布かは将来の問題として研究を要するといふ結論を得ました。現在支部会員二六七名(昭和四十四年入学まで)の現状把握は仲々むづかしく、会員の同窓会への関心、積極参加については、更に創意工夫が必要と思われま

す。一、此の頃思ふ事 最近話題にのぼる会費の問題について、私見を申し上げます。現在同窓会基金四千万円は必要に應じ有効に使用されるべきですが、会運営の近代化、貨幣価値の低下等により目減りするの低目に見えております。すでに短艇購入費が要請されてお

り、艇庫を造るのに精一杯で協力出来ないとは言えず、基金より出すことをいずれば総会の承認を得なければならぬ状況にあります。さらに各会員が同窓会への関心を高め、存在の意義を認識する意味からも

活動の基本的要素である会費の徴収を考へることは当然であります。しかしこの実施については余りにも多くの困難があるわけであり、母校の振興発展に寄与することは入学時に同窓会へ入会金を納入している生徒達に愛情をもつて考へてやることでありましよう。例へば清陵祭を愛情をもつて参観する同窓生が多勢いでもよいはずで

す。同窓会の将来に向つての展望の中で同窓会館の建設がありま

す。私共は今後さらに支部活動を活発にし、そのひろ



がりの中から母校への愛情の輪をひろげると共に、会費の徴収を真剣に考へ、その中から同窓会館建設基金積み立てを次の時代にかけても実現させる熱意を持ちたいと思ひます。会費徴集を考へる小委員会の発足を心から望む次第です。

(平山正健)



州味

味が自慢の……
伝統の味と香りと栄養を……
本場で生まれたみその王様

マツカメ

長野県岡谷市湖畔1丁目10番19号
電話(02662) 2-76111~7613

株式会社 マカネ

本社工場 長野県茅野市宮川4900
TEL 茅野 (02667) 2-6111代

マイクロエンジニアリング株式会社
MICRO ENGINEERING CO., Ltd
長野県茅野市ちの塚原989
電話茅野 (02667) 2-6551番代
テレックス 3362-447

マカネ 総業株式会社

本社 東京都新宿区新宿1-5-7
パークサイドビル2階
電話東京 354-3238
代表取締役 花岡健雄 昭和15年入学

内科
小児科

鮎沢医院

鮎沢 貢 (30回生)

電話 (0666) 2-2112

清陵人名録が「目玉」

今年度完結に全力投球

東京支部

当支部からの報告とお願いを申しあげます。

■年会費

支部事務所の設置をめざし、52年秋より年会費(千円)の徴収をはじめました。十年分まとめてお

よって、十年分まとめてお支払いの方も五百名を超え三千〜五千円と適宜先払い下さる方が多い。何分にもはじめの試みであり若干の危惧もあったが、順調に進展しております。

地方在住の方の趣旨賛同のご送金、旧職員(先生方)のご芳志もあり皆様のご協力に深謝申しあげるとともに、未納の方の即応を特にお願いいたします。

■支部事務所 本本意ながら、永年役員個人の住宅にたよって参りましたが、専用事務所設置の心を痛

●東京支部会員(首都

感いたして参りましたので、これも総会にて原則的同意を頂きました。出来れば「東京清陵クラブ」的なものとして、ご上京の会員にもご利用頂ければと考え、具体化をめざし検討中です。

個人年会費の徴収も、清陵人名録の発行も、このため財務体力強化方策の一つで、困難を承知で取り組んでいる次第です。よろしくご協力をお願いいたします。

■清陵人名録 昨年暮から掲載原稿を集めはじめ、二千名を超える原稿が集まり、目下鋭意整理編集中です。おそくとも年内にはお手許にとどきます。

■住所、勤務先のほか、近況、略歴、専門分野、親戚縁故などが豊富に盛り込まれたものが昭和十五年、別、職業別分類もあります。

●東京支部会員(首都

●東京支部会員(首都

園)については、原稿のない方も従前に準じて掲載いたします。このようにまとまった同窓会名簿は、今後自分のぞめませんので、ぜひご購入をおすすめいたします。

故人になられた先生方の懐い出の記事もあり、旧友の近況もわかり「面白く、読める名簿」です。(申込方法などは別項十一頁の広告欄をご覧になって今すぐ予約申し込みをお願いいたします。)

■本年度支部総会 9月の諏訪総会と間をおくため11月に開催します。例年の通り「清陵東京大会」にふさわしい盛大な準備をいたしたいと存じます。(日時を追ってハガキで)地方会員の方の多数ご参加を歓迎いたします。(小口楨三)

の県庁職員はほとんどが北信地方の人で占め、諏訪から来ているものは、警察職員、教員を除いて四、五名程度、教員を除いて四、五名程度の極めて少ない数であった。

しばらくして母校から母校の一部改築をするので募金をしてくれと連絡をうけた。県庁関係は私と宮崎課技師(後の建築課長)の宮坂氏が同窓生を探し出し、数名のものが募金をした。当時は支部の名称もなければ会則もない郷土母校出身のグループであった。これが長野支部の起源といえるのであろうか。

終戦後公務員の公開採用試験が採り入れられるようになり、県庁職員も諏訪地方出身者が漸増してきた。また北信地方で活躍をして

●東京支部会員(首都

長野支部

●住所、勤務先のほか、近況、略歴、専門分野、親戚縁故などが豊富に盛り込まれたものが昭和十五年、別、職業別分類もあります。

●東京支部会員(首都

長野支部(北信地方)の正式発足をみた。当支部の会員数は一六四名(教員関係は異動多く掌握に苦慮)で職場ごと二名程度の幹事を選出し、年一回の総会、職場ごとの懇親会等を開催している。これらの会合にはふるさとをなつかしみ、母校を愛しつづつ欲談をし、校歌を斉唱して全員互いに健康と発展を誓いあっている。

当支部の最長老は大正八年入学、須坂市在住の千野武雄氏である。会員は老若の男子で各職場で活躍している。各職場グループは県関係をはじめとして、八十二銀行、信濃毎日新聞、信越放送、国鉄、県経済連、中部電力、電電公社関係、一般等で構成している。

同窓会の本部、各支部の会員が県都長野、あるいは北信を訪れる機会あらば、わが長野支部会員を激励、歓談あらん事をねがい筆をおく。(五味連)

●東京支部会員(首都

●東京支部会員(首都

●東京支部会員(首都



おみそづくりを通じて
日本のおかあさんに奉仕する
ハナマルキ味噌

ハナマルキ味噌株式会社
取締役社長 花岡金郎(37回生)
専務取締役 小松良樹(51回生)



こう見よう「黎明像」

おらが母校—諏訪清陵高

校の西隅(玄関わき)にち 第十七回生で芸術院会員の

よつと見はロタンへの考え 清水多嘉示氏が彫刻したも

る人”のようなブロンズが のという。この像の建立に

立っている。よく見ると姿 は校舎改築と深いかかわり

や顔形から直後の躍動にそ があり、像そのものにも作

なえた力強さが伝わってく 者の意図する視点があるこ

る。それもそのはず「黎明 とがわかった。いまここに

の像」の名が示すとおり、 再び校舎全面改築の動きが

母校の校歌へああ深山の健 みられるに至ったのを機会

児らがやがて咲くべき春や に「黎明の像」について調



ようなものを残したい。幸
い同級生の中に清水多嘉示
という日本を代表するすば
らしい芸術家がいるから、
母校にふさわしいブロンズ
を彫ってもらいたい同級会とし
て寄付しようではないか

と当時校長だった大森栄氏
(同窓会長)に持ちかけ、
「黎明の像」の建立となった。
第十七回生は昭和八年以来
毎年会合を持っているとい

う模範的な同年会。ここで
また校舎の全面改築が行わ
れれば「黎明の像」は第一
体育館わきにある大石と共

に同窓生と学校をつなぎ
とめるさらに貴重な存在と
なるう。
この像を彫ったころ清水
氏は芸術家として全盛期に
あつた。同窓生たちの意を
汲み、心血をこの像に注ぎ
込んだ。そのかいあつて像

には「静」から「動」に転
ずる—その直前の張りつめ
た感情が巧みに表現されて
いる。
すぐれた作品であるだけ
に、見る角度も限定されて
くる。像に向かつて左の斜
め下から見上げた角度—そ
れが清水氏の意図する視点
であるという。今、その視
点から像を仰ぎ見るとこれ

から飛び立とうとする若人
の気はくが力強く伝わって
来る。左わきに植えられた
松の枝が若干邪魔になるが
それも前途をはばむであろ
う障害だと考えれば悪くな
い。像を仰いで在校生は明
日への意欲を燃やし、同窓
生は昔日の思い出にふけっ
てほしい。

本手廻り

本手廻り

本手廻り

本手廻り

季節料理

シャブシャブ料理

料理

天ぷら
割烹

仙岳



湖明館通り 電話 03515 (代)

《駐車場完備》

学校の現況

会報第五号の紙面を借りて、母校の現況について簡単にお知らせします。

生徒数

三年 二六四名 うち女 子四一名

二年 三一八名 うち女 子三五名

一年 三一九名 うち女 子六三名

計 九〇五名 うち女 子三三九名

第七通学区(諏訪市、岡谷市、茅野市、諏訪郡)の中学校卒業生数が増加し、

本年度から、定員を六学級(二七〇名)から、七学級

とおりです。

校舎・施設状況

生徒増に伴い、昨年からの本校卒業者が増加し、本年度から、定員を六学級(二七〇名)から、七学級とおりです。

▼53・3 被服教室新築、人三七名
北便所改築、更衣室増築 公立大学
▼53・9 シャワー室完 一八名(現役一五名、浪人三名)

▼54・2 ブレハブ新校 私立大学
舎(四教室)完成 二九二名(現役二二五名、浪人一六七名)
▼54・2 ロッカー室増 浪人一六七名
短大・各種学校

本年三月の進路状況
国立大学 一〇名(現役八名、浪人二名)
一七名(現役八〇名、浪人二名)

本年度の行事

すでに終了した行事
入学式(四月四日)、新入生歓迎会(四月十四日)
クラブ研究発表会(四月二十一日)、湖周駅伝(四月二十八日)、クラスマッチ(六月一日)、学有林作業(六月十二日)、清陵祭(七月十三、十四日)、クラスマッチ(八月三十一日)

これからの行事

端艇大会(九月二十八日)
クラスマッチ(十月十一日)
湖周マラソン(十月二十七日)、二年生研修旅行(十一月十三、十四日)、スキー教室(一月二十九、三十日)、卒業式(三月八日)
以上の行事から清陵生は勉強ばかりでなく、スポーツもよくやれていることがおわかりのことと思います。質実剛健、自主独立一八十余年にわたって脈々と受け継がれた校風。清陵生への同窓生各位のあたたい眼差しを期待して、学校現況の報告いたします。

W!! 凌祭から



肉弾相撃つ 教師と生徒が草相撲に熱戦。まわしは柔道着の帯。筋肉が盛り上がり、汗がほとばしった。



結 婚 式
大・小宴会・集会
出張パーティ

東洋軒

フランス料理
日本料理

- ◇神宮外苑 日本青年館内 東京都新宿区霞ヶ岳町15 03-401-7530
- ◇馬場先門 東京商工会議所内 " 千代田区丸ノ内3-2-2 03-213-1725
- ◇飯田橋駅前 飯田橋会館内 " 千代田区富士見2-10-36 03-264-7588
- ◇新宿駅南口 池田ビル地下 " 渋谷区代々木2-7 03-379-1461

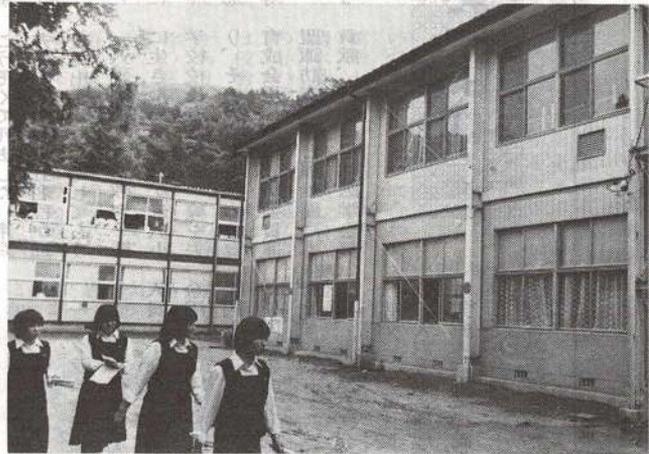
※日本青年館は国際会議場を含めた近代的設備をととのえまして本年2月新装オープンいたしました。郷党の皆様のご利用を、お待ちしております。

清水ヶ丘NC

第29回清



変ぼう かつての中庭・テニスコートには被服教室やプレハブ校舎が。三沢勝衛記念文庫も隠れて見えない。



ん、女子高校!? かわいいう女生徒がどっさりふえて。清陵祭の展示もぬいぐるみやペンダント、手芸作品がズラリ。



長髪とギター 世代は変わって、これが清陵ヤングメン。“嘆き”はみんな知っている?

諏訪清陵人名録

- 収録範囲 東京支部（首都近県）会員に加え、各地会員からの原稿を収録 5,000人
- 個人編 会員が自由に書いたペン欄が特徴 近況、経歴、研究、趣味、同窓生間の縁故など記事内容豊富。一たのしく読めます。
- 恩師編 故人になられた先生については、ご家族の方の懐い出の記事。
- 回別編 東京支部会員は原稿のない会員ももれなく収録。
- 分類編 便利な会社別・職業別分類編は、これまでの同窓会名簿にない特色。

予約申込はいますぐに（限定出版）

- 配付・価格 54年11月～12月 代金一部 4,000円（送料とも）
- 購入予約制 申込に代金金を郵便振替で下記口座へお送り下さい。但し既送付の原稿に予約明示の方を除く。（振替用紙裏面の通信欄には送付先住所、部数を記載）
- 収録原稿の急送・訂正 最終処理のやりやすい電算印刷のため8月末位なら間に合う。

〒152 目黒区鷹番3-16-20 尾沢賢一内

TEL 03-712-1018

諏訪清陵高校同窓会東京支部

〔郵便振替口座 東京3-16785〕

古稀、なお意気盛ん

☆☆昭二会 (28回生)

本年はみんな古稀の齢に達したわけだ。東京支部の副会長篠原仁蔵君曰く「最終の生存者が八十才と仮定すると毎年数名のものが鬼籍に入らなきゃあ勘定が合わなくなる」全く同感の至りだが各位のますます自重自愛、一年でも多く生き抜く、精神力と健康管理を望み、老いてますます盛んならん事を祈って止まない。

副報のみで残念だが、本年度として埼玉県立がんセンター総長で乳ガン研究の権威者、藤原正雄君が心筋こうそくで死去した。東京方面の同級生十五名程が通夜に出席した。そしてもう一人両角清夫君が教育一筋金巻千円)募集完了。応募人員九十余人。金額十一万余円。一万円、三千円、二千円とお送り下さったと

頼岳寺にて本葬、同級生多数参列してくれた。同級生として、また同寮として林多君が弔辞を呈した。しめっぽい報告のみで申し訳ない。去年の如く吉報を望んで報告とする。

昭二会事務局

TEL 岡谷②三七三八

林 憲一

奮って投稿を

学年だよりは一番読まれる懐かしい欄ですが、出稿が少なくて困っています。学年幹事さんの奮起を望んでやみません。

編集委員会

母校教頭に武井君

☆☆還暦迎えた39回生

一、クラス会基金(一人にて盛会でした。会費五千円では両先生の御接待も大変ならんと、諏訪本部より金参万円補助。幹事、茅野生茂、藤森重利の両君、御苦勞様でした。「諏訪のクラス会は一体何時やるのだ」との激励有り、藤原君と相談の結果、九月上旬頃では「グシタイ」よ。今病んだら息子が達夫婦にはとても面倒は見えないぞ。気を付ける事だ。御自愛を祈る。

二、東京クラス会、四月十四日(土)十七時より開催。矢沢先生(地理)、白井先生(図画)の両先生及び二十名余の同級生出席。村上君の新装成った東洋軒校清陵高校の教頭に栄転。

先づはおめでと。古巣に戻って居心地は至極良さそう。「歓迎会ははまだか」と首を長くして待っている。誰か一肌脱ぐ有志はいないか。

結び、もう六十才だ。年をとったもんだ。毎日が「ゴ

学年だより

二、東京クラス会、四月十四日(土)十七時より開催。矢沢先生(地理)、白井先生(図画)の両先生及び二十名余の同級生出席。村上君の新装成った東洋軒校清陵高校の教頭に栄転。

(宮坂健一朗)

家庭電化製品はナショナルで.....

信濃ナショナル製品販売株式会社

宮坂昌人(23回)

岡谷市山下町一丁目21番15号

TEL (02662)-③-4581(代)

こちらは事務長に山崎君

盛会だった46回生東京学年会

悪童老い易く…卒業三十四年目の東京学年会



第四十六回（昭和十五年入学）生は諏訪清陵高校創立八十周年記念式典直後に同級会を開いただけで、その後鳴かず飛ばずをきめ込んで来たが、今年の四月、会員の一人・山崎忠君が諏訪実業高校から母校の事務長に転任して来たのを機会

に、その歓迎会をかね、同級会開催の気運がようやく高まっている。同窓会総会の責任幹事が三年後にはやってくるのでその準備態勢を整える必要性に迫られ、月二十八日午後五時から新宿区西新宿ラザ通り三番街の又平で開いた。出席者

は二十七人、諏訪から二人の特別参加があり、本会からも尾沢賢一常任幹事が支部連絡のため出席された。にぎやかな宴会となった。在学したのが戦時中だったこともあって、一別以来三十数年ぶりに顔を合わせたい人もいて懐旧談に花を咲かせた。少年時代の面影を残さぬ旧友であっても、酒が回って話し合ううちに思

い出に共通点を見出し、タイムトンネルの彼方をそれぞれがのぞき見た。会が終

わった後も語りは尽きず紅灯またたく新宿の街へ三三五と吸い込まれて行つた。

なお、この同級会でこれまであいまいになっていた支部幹事に小泉和明、増沢喜美夫の両君を正式に選任毎年、同級会支部の集いを待つことを申し合わせた。

(田中)

快適な住まい 造りに奉仕する

三井不動産販売特約代理店
建設大臣免許(4)第333号

第一不動産株式会社

諏訪支社

諏訪市諏訪1-3-11
TEL 代表 (2)5361

(曠野) 夕ぐれの野の空こえて鳥らの
かへらふ国もはるけかるらし

島木赤彦 (明治43年1月15日布半歌会)

ご来泊をお待ちしております。

政府登録国際観光旅館

ぬのはん

〒392 諏訪市湖岸通り3-2-9

TEL 02665-2-5500

代表取締役 藤原正男 (39回生)
相談役 藤原和夫 (26回生)
副支配人 田中道折 (58回生)
経理部長 小笠原小笠原 (39回生)

毎月七日が集会日

☆☆ 気を吐く52、55回生

五十二回、五十五回生昭和二十七年卒業者の皆さまには、それぞれ活躍のことと存じます。

去る月、諏訪在住の同期生が集いまして「七日会」(五プラスニイコール七で

七日に集る会の意)を発足させました。

現在でも特別な連絡をとらなくとも、毎月七日には三々五々参会するようにになり、大いに語り合いお互い情報の交換などから得るところも少なくありません。地方から帰郷の際は七日頃を予定してご出席下さい)

毎月次の要領で開催しておりますので同期の皆さん、どなたでもお気軽にお立ち寄り下さい。

なお有志で積立ても行っており、将来は海外旅行のために役立てたらどうか

どの計画も検討しております。月の趣意を以て同

▽開催日 毎月七日(七日が日曜日の場合は、翌日の八日) 午後七時～九時

▽場所 北山荘(〇二六六五―二一〇五三三)

会場の変更のある場合は、北山荘(連絡すれば判るようになります)

▽地区別責任者
茅野地区 五味信久
原村・富士見町地区 小林貢三郎

諏訪地区 三井光元
下諏訪地区 土橋光広
岡谷地区 下村幹夫

次のとおり住所が変更になりましたのでお知らせします。

▼味沢正治(世田谷区千歳台2―一九―一七)▼牛山房弘(八王子市左入町五二〇―一〇)▼小口元一(杉

並区清水町三二―二二一〇)▼太田弘道(東村山市恩多町三―四三―一四)▼尾沢安雄(世田谷区赤堤2―9

松市千石町六一―一八)▼矢島良美(中野区沼袋一―三

四―一三)▼春日井充(横浜

市緑区奈良町一五六六―一

一)▼河西永吉(熱田区南

石)文男(品川区勝島一―台サニーハイツ五〇四)▼

三―二〇―七〇一)▼坂本祐彦(大分市城崎町一

三―二五)▼篠原剛(国立

市西二―三三〇―五五)▼関

令明(武蔵野市西久保二―

一五―二七)▼茅野実(澁

谷区鉢山町七―八鉢山ハイ

ム二〇三)▼中島節治(津

々見市岩屋一三―一一)

▼西沢賢一(新潟市関屋町

三四八)▼花岡史郎(熊谷

市上元二―八五―一〇)

▼波多秀夫(港区南青山一

一五―二六―三〇六)▼

平出公仁(茅野市ちの六二

八―二二)▼藤森克男(品川

区小山台一―三〇―六小山

茅野市金沢大池五三四)

九―一五〇)▼矢島八三(

茅野市金沢大池五三四)

九―一五〇)▼矢島八三(

茅野市金沢大池五三四)

九―一五〇)▼矢島八三(

茅野市金沢大池五三四)

九―一五〇)▼矢島八三(

茅野市金沢大池五三四)

コンペの後は校歌

☆☆ 会名考慮中の61回生

我々には会の名前がついておりません。名前をつけておられます。名前をつける程活発に活動してないというのが現状のようです。創立八十周年記念の寄付金を集めた際、どのようにして、広く通知を出し、諏訪市で会合を開いたのが合

信州の自然が育てた!!

ヤマナガみそ

株式会社 ヤマナガ 茅野市塚原1-2-5
TEL(茅野)2-1212

社長 矢崎 広恵
専務 矢崎清太郎 (第60回生)

富士見高原特産

かんてん

(株)虎屋指定寒天工場

有限会社 小笠原商店

(第61回生)小笠原寿房

TEL 02666-2-2067

て、しかも地理的にも中心である諏訪市で行っており
ます。もちろん将来は会場
の持ちまわりも考えなければ
いけません。平均二十五
人くらいの出席があります。
一杯飲みながら近況を語り
合い、カラオケで楽しむと
いった内容です。今後はお
盆とお正月の年三回くらい
は行いたいと願っておりま
す。

一方これとは別に、ゴルフ愛好会というのがあり、年二回くらいコンペを行っており
ます。これには関東一円を含め二十人くらいが必ず出席し、年々ゴルフ人口が増えている状況にかんがみ、年ごとに盛大になって
おります。終了後のパーティーでは必ず校歌を皆でうたい氣勢をあげていま
す。ところで日ごとに複雑化していく社会にあり、毎日の生活にきゅうきゅうとして
いる昨今、母校のことなど思い出す余裕さえない
状態ですが、こうして一堂に
会して、飲みながらひざを
交えて語り合い、またス



ひざ 久かたの“民”に酔う

☆ ☆ 74回生、初の学年会

ポーツ等により、はじめて
清陵に学んでよかつたとい
う実感がわいてくるという
のが出席者全員異口同音い
ひざ
つわらざる気持でした。今
後ますますこうした会
合が活発になるよう大いに
期待するとともに、会の立

派な名称を考えたいもので
す。(土橋 勉)

当日は午後七時からの開
宴だったが、旧友との再会
を待ち切れない同窓生たち
は、六時前から次つぎに来
場。出席者は郷里と首都圏
の在住者がほぼ半数で、卒
業以来はじめて会ったとい
う人も多かった。

宴会では、恩師の皆さん
にひと言ずつあいさつをい
ただいたあと乾杯。たちま
ち会場のあちこちで歓談の
輪ができ、思い出話や現在
の仕事のことなどに花を咲
かせていた。当然のことな
がら、最後には第一、第二
七十四回生も、清水ヶ丘
を巣立ってはや九年目。学
年会開催は、故郷への日々
の民のあなうれしげに、全
員が大声を張り上げて幕と
なった。甲斐大生会では
七十四回学年関係の連絡
は、矢島伸一君(電話・諏
訪③2472)へ。伊豆大生
会では、前田(工藤一明)

島(良)、三村、天野、湯本、
北川の各先生もゲストとし
て出席していただく中で旧
交を温め、今後の定期的な
学年会開催を誓い合った。
七十四回生も、清水ヶ丘
を巣立ってはや九年目。学
年会開催は、故郷への日々
の民のあなうれしげに、全
員が大声を張り上げて幕と
なった。甲斐大生会では
七十四回学年関係の連絡
は、矢島伸一君(電話・諏
訪③2472)へ。伊豆大生
会では、前田(工藤一明)



下諏訪歯科医師会

(清陵出身)

山田四郎	土田昌	小口賢而	今井堯夫	溝口幸二	中根幹夫	北原一雄	三輪光弘	三輪良三
------	-----	------	------	------	------	------	------	------

清陵健児、ここに在り

対談 母校の運動史断面

青春とスポーツに流す汗はつきものと言えるのでは。清陵あるいは諏中という名に、ともすれば「進学校」という目でしか見られない母校にあつても、青春時代に清水ヶ丘の学び舎で熱い汗をほとばしらせた人は少なくないだろう。戦前に諏中で学び運動にいそしみ、戦後は体育教師として三十年母校で教鞭をとり、しかも八十年史編集委員として活躍しておられる矢島子郎、矢島寿雄両氏に、「わが校のスポーツ」あれこれを尋ねてみた。

矢島子郎 選手制度廃止後

「今日はお忙しいところを恐れ入ります。さっそくですが、簡単な自己紹介をお願いします。」

矢島子郎 昭和十一年入学の四十二回生。戦後二十五年から体育教師として勤めています。

矢島寿 私は昭和十七年の入学、四十八回生。二十七年からです。運動部は籠球部だった。

「お二人が生徒のころにはだいぶ運動一般化など

になるまで練習した。当時はいずれかの運動部に所属しなければならなかったし、部の数が少ない。私のころでも籠球部は八十人、百人は部員がいた。だから一般部員が練習できるのはせいぜい週に二日。そんな不満が運動一般化の声となったのでは。」

矢島子郎 私が赴任した二

十七年ころから部は増え出した。文化系の部は次々と生まれた。いまも一人一部に入ることが望ましいという指導はしているんですが、運動部に限られていないか

ら。

矢島子郎 昭和の初めころまでにはどんなスポーツが盛んだったわけですか。

と野球の話が実に多い。もつともそれだけやり玉にあがるケースが少なくなかったようだ。

矢島寿 大正三年の連合

運動会が中止となったときもそうだった。六年に復活するときは、種目に野球はなくなっており、陸上が変わって加えられている。ただ大正四年から甲子園大会が始まり、甲信大会が行われるようになってきているんだが、この甲信大会で大正八年か九年、決勝戦まで駒を進めることになる。結果は長野師範に2対1で惜敗したわけだが、これに勝つていけば甲子園だ。野球部史もだいぶ変わっていたかもしれ

設計施工で郷土の建築に貢献する

株式会社 今井工務店

取締役社長 今井辰五郎 (34回生)

長野県下諏訪町5252 TEL 02662-7-7221

れしかったようだ。
矢島子 年代の差は「民」(金色の民)をやれば通じる。
 思う。最近はこちらのほうが女子が増えてきた。しかし女子が運動部を作りたいといつても施設がないために現実には抑えるだけ。施設が整えば、バレーで清陵と二葉の対決する日が来るかもしれないのだが(笑い)。

矢島子 いまの子たちは「民」ばかりやって、あなうれし」を忘れてしまった。
 (笑い)「それサクセンの」の応援歌も、すたれ、校歌で早く歌うのがせめてもの名残りだろう。
 話は変わりますが、最近では進学との両立から指導も難しいのはありませんか。
矢島子 うちの生徒は昔から運動が好きだと思っただが、どうだろう。

矢島子 自習になると、バスケット、テニス、ソフトと好んでやる。授業の邪魔になるくらいだ。クラスマッチだなんていえば、学校中わんわんとした騒ぎ。負けるのが悔しいんだろうな。湖周マラソンの練習でもタイムが前回より落ちると本当に悔しがらる。
矢島子 だから施設面だけでなくでもヨソ並みになったらかなりレベルアップすると

思う。最近はこちらのほうが女子が増えてきた。しかし女子が運動部を作りたいといつても施設がないために現実には抑えるだけ。施設が整えば、バレーで清陵と二葉の対決する日が来るかもしれないのだが(笑い)。
矢島子 校舎改築と併せて施設の充実を考えていかないと、完全に立ち遅れてしまふ。うちの場合、今も昔も、練習量と戦績を考えるとレベルは高いと思うんですよ。ジャンプ力が弱いと知れば、ツマ先歩きをするなど生活の中で努力する。理想に向って両立をし、その中で少ない時間に密度の高いものを考え、苦勞し、工夫する—そんな求める心というものがうちの学校にはあると思う。
 「—それが清陵スポーツの底を流れているものではないか。」
矢島子 生活指導をしつかりし、きちんと切り換えをさせるようにしていけば、多くの卒業生がそうだったように進学との両立は可能



むしろそうした性格づくりが卒業後の生活の中にもきつと生き続けると思うんですよ。
矢島子 入学してくる子の多くが、清陵でしっかりと勉強をして大学へ行けと言われてくる。その子たちがやがて日曜返上で一生懸命練習する。大学進学が厳しくなっている中で、そんな連中の心意気がうれしいし、大きく伸ばしてやらねばど思っています。
 「—今日はどうもありがとうございしました。母校の活躍は、我々同窓会員のの中にすでに眠りつつある青春の血潮を揺り起こしてくれ

ます。施設不備など恵まれぬ点はあるでしょうが、今後もぜひお二人にがんばっていただきたいと思えます。
 四十二年、インターハイ県予選決勝戦—清陵籠球部黄金時代のひとコマ
 ります。日頃足に自信のある方はもちろん、健康づくりの一環として、昔をしのびつつ走ってみませんか。ただ参加希望者は日頃のトレーニングと医師による健康診断をくれぐれもお忘れにならないよう気をつけて。OBの参加申し込みは諏訪市湯の脇二の八の一五松崎元博さんまで。

伝統の湖周マラソンに参加希望の皆さんへ
 ことしもまた十月二十七日に恒例の諏訪湖一周マラソン大会が開かれます。清陵下高国寺前をスタート。下諏訪、岡谷、湊、豊田と回り、ゴールは高島公園。全行程は二十四となり。年ごとにOBの参加も増えてお

横井病院

診療科目

- 一、外科
- 一、脳神経外科
- 一、整形外科
- 一、眼科

茅野市宮川三九八〇
 電話(2)2316(代)

院長 横井次雄
 医師 横井一彦 (58回生)
 同 横井俊明
 同 横井節子
 薬局長 横井昌隆 (64回生)

(64回生)

訃報



↑ 再開発で生まれ変わった駅前

変わる諏訪市

↓ 湖を埋め立てた広大なヨットハーバー



53年9月より
54年7月まで

を経て会長の現職にあった

式会社管財人代理専務取締役として活躍、諏訪郷友会理事も務めた。

日心筋こうそくてい死。四十三歳。諏訪市出身。東京で修業後、家業のハナビヤ洋服店を継ぎ区長、同窓会五十七回学年幹事などを務めた。

日心筋こうそくてい死。三十四歳。下諏訪町出身。青山学院大、日本税務大卒。東京国税局調査第一部特別国税調査官付国税調査官を務めた。

笠原七郎さん 九月四日 狭心症で死去。六十七歳。

五味薫さん 九月十日、心筋こうそくてい死。三十四歳。諏訪市出身。成蹊大寺壇信徒総代、千鹿神社氏子総代、有賀区議、諏訪市選挙管理委員など務めた。

伊藤節三さん 十二月八日脳いっ血で、東京の日扇会第一病院で死去。六十七歳。茅野市玉川出身。戦後東京に三任商事株式会社を設立。五十一年財団法人諏訪郷友会理事長に就任以来同会の経営する長善館の運営に力を入れ、郷土出身学生への寮生活の向上に務めた。

金子晃さん 一月三十日死去。四十八歳。諏訪市出身。信大医学部大学院卒、医学博士。諏訪赤十字病院を経て内科医を開業、諏訪市湖南小、諏訪西中の校医を務めた。

矢崎直行さん 二月十一日死去。九十歳。茅野市出身。家業の蝋燭業、寒天業を営むかたわら塚原区長などの公職を務めた。漢詩の作詩吟詠をよくし秀岳と号した。

諏訪市出身。大連市役所勤務を経て戦後、岡谷市の養老の滝専務のかたわら江音寺壇信徒総代、千鹿神社氏子総代、有賀区議、諏訪市選挙管理委員など務めた。

富山の太平洋金属に勤務のあと郷里に帰り、家業の割烹・水月を手伝い、五味医院事務長も勤めた。

茅野市玉川出身。戦後東京に三任商事株式会社を設立。五十一年財団法人諏訪郷友会理事長に就任以来同会の経営する長善館の運営に力を入れ、郷土出身学生への寮生活の向上に務めた。

信大医学部大学院卒、医学博士。諏訪赤十字病院を経て内科医を開業、諏訪市湖南小、諏訪西中の校医を務めた。

茅野市出身。家業の蝋燭業、寒天業を営むかたわら塚原区長などの公職を務めた。漢詩の作詩吟詠をよくし秀岳と号した。

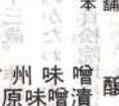
宮坂忠亮さん 九月七日死去。九十一歳。諏訪市出身。茅野市でダイヤ菊酒造株式会社を創業、同社社長

小平修さん 九月二十三日死去。六十七歳。茅野市出身。日大卒。佐藤造機株

三井泰一郎さん 二月三日

北沢武夫さん 二月二十

つけもの 味の 旨



丸井 本舗 諏訪

丸井伊藤商店

- 本社工場 長野県茅野市宮川4529 ☎(02667)2-2272
- 茅野本店 中央線茅野駅前直売店 ☎(02667)2-2057
- 諏訪店 上諏訪駅前スプラザビル1F ☎(02665)8-0033
- 東京営業所 東京都世田谷区上祖師谷 ☎(03)300-5787
- 東京調布店 京王線調布駅イカルプラザビル地下1F ☎(0424)87-6803
- 松本店 松本駅ビルセルヴァン1F ☎(0263)36-2511
- 伊藤重雄 (27回) 伊藤博之 (60回)
- 伊藤和夫 (63回)

古さの中に新しさを加えた サービスの店

みのわや旅館 レストランみのわや

辰野駅前 TEL 02664~2~0032

七日死去。八十七歳。諏訪市教育委員、選挙管理委員出身。近衛騎兵に入隊。民生委員も務めた。昭和十八年に帰郷、豊田郵便局長を務めた。

阿部高光さん 三月十五日死去。九十三歳。原村出身。東京薬学校（現東京薬科大）卒。永盛堂薬局を開業。県薬剤師会理事、諏訪法科卒、浜新聞店代表取締役として四十七年間にわた

り新聞販売業に従事。信毎会長を歴任、諏訪自動車株式会社取締役も務めた。

会会長、日本新聞販売協会県支部長などを歴任。岡谷

土橋由衛さん 四月十八

日、心不全で死去。八十九歳。諏訪市出身。丸多田中屋商店を経営するかわら

諏訪証券社長、旧上諏訪町議、民生委員、選挙管理委員、保護司など歴任。また

剣道に精進、旧制諏訪中学校道師範のほか、市内に尚

武館を建設、館長として多くの子弟を育てた。剣道七段、同範士、居合道七段、

県剣道連盟副会長、県剣道場連盟名誉会長を務めた。

同窓会の会員名簿を繰っていた知友が「医者と学校教育師がいやに目につく。新聞記者も多い。君にもそれ

が見えるが唯我独尊教育に力を注いで来たみたい」と

言った。つまりは一本気で協調性に欠ける一が知友の

「清陵っ子」評だ。不本意ではあるが、「孤高」がそ

う映るのだろう▼他人の思惑に惑わされることはないだが自己の本質を知っておく必要はある。同窓生に卓越した財界人や政界人が少ないのは知友の指摘する協

調性の欠如に原因があるのかもしれぬ。だとすれば「清陵気質」の「孤高」のマイナス面にも目を向けなければなるまい▼なにはともあれ学窓にあるうちから「清陵っ子」の連帯感をはぐくんでおくことの必要性を痛感する。今度の会報の矢島子郎、矢島寿雄両面体育教師の対談にも出ていたが連帯感の養成にはスポーツを媒体にするのが最も近道

のようだ。同窓会としても体育部の強化にもっと関心を払うべきだろう。そうすれば若い人達が同窓会に對して今よりずっと親近感を

持つに違いない▼同窓会の現状を見ると、年を取るに従って同年会の活動は活発になるが、若年層にはほとんど動きがない。これでは同窓会は老化する一方だ。「清陵気質」に「連帯」が加わればと願わずにはいられない。(田中)

後野祐治さん 七月十八日死去。九十三歳。諏訪市出身。農業のかたわら中洲下金子区長、貞松院壇徒総代、中洲老人クラブ役員を務めた。

塩沢正俊さん 六月十一日死去。六十六歳。茅野市出身。東北大医学部、陸軍軍医学校卒。胸部外科の専門家として国際外科学会第三回アジア太平洋部会に出席のため、インドネシアに出張中だった。日本外科学会理事、結核予防会結核研究所附属病院副院長を経て同院顧問だった。

フイックス艇 購入へ

毎年一回、湖上に若い力を発散させている清陵伝統行事の短艇大会ですが、使

用しているフイックス艇が老朽化し、競技に支障が出ております。このため、学校ではこしの短艇大会(九月二十八日)までに、同艇二艇を購入したいとして、

P.T.A. 漕艇会などで募金活動に乗り出すことになっていますので、よろしく願います。なお、同窓会でも応分の助成を決定しています。

注文がつけられましたが、二期待に沿うことができたでしょうか。

*編集委員の悩みは、何といつても原稿が思うように集まらないということ

です。今回も多くの方に執筆を依頼しましたが、提出しただけな方もあり残念でした。

*一号から四号までは八十周年事業の一環として発行してきましたが、今回から八十周年とは分離することになり、編集責任者も岩波泰明さんから田中吉泰さんにかわり、若い方四人新しく委員になっていただきました。体育の先生方の対

談はこれらの人たちの発案です。できるだけ新鮮味を出していきたいと思

いますので、ご意見等ありましたらとどしとどしお寄せください。

(石井末夫)

編集後記

きな事業の陰

にかくれていたが、これからは会報の発行が同窓会としての主な事業になる。当然注目をされるのでよい会報をつくってほしい」との

注文がつけられましたが、二期待に沿うことができたでしょうか。

*編集委員の悩みは、何といつても原稿が思うように集まらないということ

です。今回も多くの方に執筆を依頼しましたが、提出しただけな方もあり残念でした。

*一号から四号までは八十周年事業の一環として発行してきましたが、今回から八十周年とは分離することになり、編集責任者も岩波泰明さんから田中吉泰さんにかわり、若い方四人新しく委員になっていただきました。体育の先生方の対

談はこれらの人たちの発案です。できるだけ新鮮味を出していきたいと思

いますので、ご意見等ありましたらとどしとどしお寄せください。

(石井末夫)

編集後記

きな事業の陰

編集後記

きな事業の陰

編集後記

きな事業の陰

編集後記

